涙ながらに淺野造船閉鎖

製板部を除く外千八百名の職工を一擧に解雇

幹部は辭表提出

廿八日淺野總一郎氏を社長とする鶴見の淺野造船所（資本金三千萬圓）は海運界の不況に依り一昨年來漸次縮小方針を執り四千名の

職工

を千九百名に減じたが今回更に一大縮小方針を執る事になり淺野社長は廿八日午後一時の職工を一齊に工場に集め「内外の事情は到底此儘事業を繼續する事は出來ないから一時中止の已むなきに至った」と悲痛な口調で會社の事情を縷々陳べ、製板部八十名を除く外造船所各部の職工千八百名を全部解雇する旨を言渡したので各職工は

突然

であったが會社の内容を聞いて涙を出した者もあり何れも[illegible]造船部長其他各主任に別れの言葉を後に默々として歸った、そして會社では規定に基いて解雇手當として勤續年限半ケ年未滿は日給廿四日分、夫から半ケ年を増す每に十二日分を増す割合で與へ

別に

豫告手當として十七日分を何れも來月五、八の兩日に亘って支拂ふ筈である、斯て同造船所は製板部を除いて造船、造機の各部を一時閉鎖を見た譯であるが

同社では過般進水を終へた飛行母艦鳳翔一萬噸を建造した以外には殆ど目星しい造船はなかったもので今後事業は極く小さくして繼續する方針の如く現在五分通り出來上った東洋汽船の黒洋丸（一萬噸）と

龍骨

だけ組立てた七千噸の貨物船四十三番船の兩船は海運界不況の爲此儘で全然中止する事になった而して同社では現在注文を受けつゝある帝國海軍の浚渫船一隻、内務省の注文に依る泥運船三隻、[illegible]省の注文に依るボイラー等の造船、造機器は今後改めて百名内外の職工を殘して現在從って居る製板部と共に事業を

繼續

する筈である、尚ほ部員二百餘名に對しては[illegible]十數名を殘す以外は大半に解雇する模樣で[illegible]造船部長中野[illegible]部長其他十數名の技師及一部の幹部は夫々自ら辭表を提出する模樣である

職工は家を出す 鶴見は無人の境

工友會は資金の件は更に紛糾せん

淺野造船所より解雇せられた千八百名の職工は二十九日[illegible]外に一歩も出でず[illegible]一帶は[illegible]の如く[illegible]職工の住宅[illegible]は全く火の消えた様な[illegible]の相[illegible]もなく

寂寞として

ある職工より組織された工友會はこの際從業員の[illegible]百餘万円を會員に分配しやうと[illegible]しているが會社は職工の懐具合に依って工友會は自然に解散されたものであるから同會社より同會に給附したものであるから同會が解散すれば[illegible]にも付かない[illegible]は最近の會社は職工に分配せぬと宣言したので從って職工は不[illegible]

泣寢入りさ

[illegible]職工に更に紛糾せしめやうといふ憂間であるので此の問題は[illegible]協調會から廿九日[illegible]一夫氏が來り職工の爲に調停に當らうとしてゐるが職工は全く第三者の手を煩はさず直接會社に當るとのことである

[illegible]も同造船所の構内に[illegible]してゐるが[illegible]

淺野造船閉鎖後どうなる

職工は就職難

鶴見町民は落膽の體

市、社會局失業者救濟に着手

[illegible]海軍界の[illegible]

五月八日

疲れ目に水

勝負力か

六十餘名

乾船渠は

[illegible]

[illegible]造船所の大縮小の報を聞いた鶴見町民は[illegible]と落膽して居るが[illegible]廿八日[illegible]造船所の閉鎖を以って[illegible]職工千七百五十五名の[illegible]を取り除くと同時に全職工千七百五十五名の内製鐵工場の百八名だけを殘し[illegible]千六百四十七名に對して[illegible]の解雇を[illegible]

[illegible]

[illegible]は來る八月一日から[illegible]と共に解雇職工に對し廿六日分以上廿八日分を支給し六ヶ月以上一年未滿の者に對し二十一日分の手當を[illegible]解雇する[illegible]であるが職工の[illegible]に對しては手當十四日分を支給し[illegible]

[illegible]

[illegible]今後は[illegible]作業所の[illegible]である